

民族舞踊文化



No.26

2014年5月8日

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団

〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F TEL 03-3583-3633(代)
FAX 03-3583-3639



平成26年3月世界舞踊祭にて

ごあいさつ

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 加戸 守行

本年の黛民族舞踊団の活動は、3月末の国立劇場小劇場での世界舞踊祭への参加で幕を開けました。当財団創設者黛節子先生の力作「出雲の阿国」を二代目家元黛琉美さんの手によって見事に再現し、国立の舞台に素晴らしくあでやかな花を咲かせ、満場の好評を博することができました。

今年のアジア民族舞踊交流会は、昨年からご縁のできたマレーシアのサラワク文化村民族舞踊団と韓国の尹秀美民族舞踊団とに御参加いただいて黛民族舞踊団との3団体で公演を開催いたします。例によって、今年も群馬県太田市の小学校の児童のみなさんの舞踊体験及び舞踊交流を行えますこと、なによりと思っております。

どうか、関係の皆様には、引き続き御理解・御支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

アジア民族舞踊交流会

2013年7月12日 (金) ～7月13日 (土)



太田市エアリスホール舞台にて集合写真

アジア民族舞踊交流会の公演

2013年7月12日 (金) 舞踊交流会アウトリーチ

7月13日 (土) 舞踊交流会

出演 【マレーシア民族舞踊団〔ムカール・ブタヤ〕メンバー】

団長 新井 卓治

団員 星野 佳代子 塚原 葉子 溝口 善子 森川 邦子

【ヌリッティアンジャリ舞踊団】

団長 黒川 妙子

団員 武藤 透子 窪田 汐里

【黛民族舞踊団メンバー】

特別出演 藤間 章吾

団長 黛 琉美

団員 黛 莉香 黛 真也 黛 李穂 黛 圭

伊藤 みつ子 田母神 裕子 五月女 華舟 宇野 あかり

スタッフ

【照明】 井上 正美 岡田 一雄 富沢 正士

【舞台監督】 八木 清市 松村 若奈 赤木 可奈

主催 一般財団法人 黛民族舞踊文化財団 ・ 後援 文化庁・公益社団法人 日本マレーシア協会・
韓国大使館韓国文化院

共催 一般財団法人 太田市文化スポーツ振興財団

アジア民族舞踊交流会全記録

7月12日（金）

マレーシア民族舞踊団・インド ヌリッティアンジャリ舞踊団のメンバーを連れ全員 7時40分浅草発東武伊勢崎線の特急で群馬県太田市へ向かう。太田グランドホテルに荷物を置き、14時開演の舞踊交流会アウトリーチに間に合う様に太田市立木崎小学校へ向かった。

小学生の皆さんが笑顔で待っていて下さった。マレーシアは、マレーシア民族舞踊団（ムカール・ブダヤ）インドは、インド ヌリッティアンジャリ舞踊団。マレーシアはマレーシアの舞踊の特徴を生かし楽しく指導した。インドも特徴を生かした面白い舞踊で楽しい時間を過ごし、可愛い生徒の皆さんに別れを告げてホテルへと戻った。

ホテルでエアリスホールの重役さんとマレーシア・インドの舞踊員達も初めてお目に懸かり一緒に歓迎夕食会に臨みそれぞれ自国の特徴を生かしての踊りのお話をして楽しい夕食会を済ませ1日目は無事に終了した。



太田市立木崎小学校でのアウトリーチの様子

7月13日（土）

黛民族舞踊団が浅草を7時40分に出発して、太田市のエアリスホールに直行。10時よりリハーサルを行い15時より舞踊交流会を始めました。今年はマレーシア・インドと共演のため前年とメンバーが異なったのでお客様からも素晴らしい踊りを見せて頂けたと評判でした。夕方、太田から浅草に戻りみんなで楽しく夕飯を済ませた。

2014年アジア民族舞踊団交流会のプログラム解説

◆第1部◆

1. 傘おどり（日本・鳥取県）

貝殻節（元唄賀露：もとうたかろ）の曲に鳥取地方の民族芸能の傘おどりをもとに創作したもの。力強くたくましい賀露の漁師たちの心意気を踊り、地元で作られた大きな傘で表現している。



黛：傘おどり

2. 歓迎の踊り（マレーシア）

男性はブンガマンガーと呼ばれるきらきらした花、女性は金の花束を持ち、マレーの伝統的なスタイルでお客様を歓迎する踊り。



マレーシア：歓迎の踊

3. ボーシャンボー Bho Shambo（インド）

（バラタナティヤム古典舞踊 Bharatanatyam）

ヒンドウ教の主要な神である、「シヴァ神」を描写し、讃える踊り。

シヴァ神は、世界の寿命が尽きた時、世界を破壊して次の世界創造に備える役目をしており、災いと恩恵を共にもたらす。日本では、大自在天ともいわれる。

シヴァ神は、ヒマラヤのカイラーサ山で瞑想に励み、宇宙の踊り手であるナタラージャ（踊りの王）とよばれ、片手にはダムルー太鼓をしながら、宇宙を動かす。

その頭髮に三日月をつけ、長い髪は頭の上で結ばれている。そして頭頂部からは聖なるガンジス川がふき出す。眉間には第3の目が開いており、怒ると激しい炎を出して全てを焼き尽くす。「ボーシャンボー、シヴァシャンボー」とはじまる有名な歌に合わせて踊られるが、その歌は、シヴァ神は時空を超越し、苦しみの大海から救ってくれる存在とうたっている。



インド：ボーシャンボー

4. 黒田節（日本・福島県）

日本の民謡といえば、黒田節と言われるほど多くの
人々に親しまれているが、この曲は越天楽の曲調をも
ち、民謡には珍しく格調の高いものである。古典のテ
クニックをもとに、若き武士の勇壮と典雅を表現した
ものである。



黛：黒田節

5. ソンケット（マレーシア）

マレー半島東海岸で盛んなマレー伝統織物「ソンケ
ット」を、女性が心を込めて織り上げる様子を描いた
踊り。最後に扇や帽子を作り上げることに注目。



マレーシア：ソンケット

6. ジャナキタ・ティラキタ Janakita Tirakita（インド）

（バラタナティヤム古典舞踊 Bharatanatyam）

ヒンドゥ教の神々のうち重要な五つの神々が、仏像の印相のように、それぞれの特徴の印を結ぶ手のポーズによって表
現される。

第1は、象の顔をもつ智慧の神ガネーシャ神。

第2は、勇士カルティケヤの神で、6つの顔と12本の腕を備え、孔雀に乗り槍を持つ若い青少年の姿であらわされ
この神は、仏教にも伝わって韋駄天となった。

第3は、サラスバティ女神で、芸術、学問などの知を司り、日本では弁才天として親しまれている。4本の腕を持
ち、2本の腕には、数珠とヴェーダ、もう1組の腕に
ヴィーナと呼ばれる琵琶に似た弦楽器を持ち、白鳥ま
たはクジャクの上に、あるいは蓮華の上に座る。

第4は、美と豊穡と幸運を司るラクシュミ女神が登場する。蓮華の目と蓮華の色をした肌を持ち、蓮華の
衣を纏っている。仏教では吉祥天と呼ばれ、福德安楽
を恵み仏法を護持する天女とされる。

第5は、シヴァ神をたたえる踊りで、その後最後
に、神々の言葉が記されたヴェータの経典を学び、そ
れを唱えることで、神をたたえる。



インド：ジャナキタ・ティラキタ

7. 松島音頭（日本・宮城県）

近代日本に於ける新しい歌謡の一つで、この松島音頭に日本の踊りのテクニクの表現で振り付けをしている。



黛：松島音頭

8. ピリン（マレーシア）

ピリン（お皿）を落とさないようにしながら踊る迫力のあるダンス。マレー半島南部スレンバンを州都とするヌグリ・スンビラン州に伝わる、ミナンカバウ族の踊り。マレーシアで最も有名なダンスの一つ。



マレーシア：ピリン

9. シャブダムー古代叙事詩マハーバーラタから

Shabdam - from Mahabharata（インド）

（バラタナティヤム古典舞踊 Bharatanatyam）

有名な古代叙事詩マハーバーラタは、ヒンドゥ教の聖典の内でも重視されるものである。これはインドのみならず、東南アジア各国にも普及している壮大な物語でその内容は、人間世界のありとあらゆる物語が書かれている。今回お見せする場面は。その中でも有名な、いとこ同士の王子達が敵対して行うサイコロ賭博の場面。

古代のインドラプラスタ王国はユディシュティラという聡明な王子のもとで繁栄を極めていたが、いとこのドゥルヨーダナは嫉妬に苛まれユディシュティラをサイコロ勝負に誘い、ユディシュティラ王子から王国、兄弟達、妻ドラウパディーに至るまですべてを巻き上げてしまう。

すべてを失ったユディシュティラ王子達は13年間王国を追放され、流民としての生活を送ることになる。妻ドラウパディーは辱めを受け、サリーをひきはがされそうになるが、これを見ていた偉大なクリシュナ神が次々とサリーの布をおくりだすので、妻のサリーの布をいくらひっぱっても、ぬがすことはできず難をのがれることができたという有名なエピソードも登場。



インド：シャブダム

◆第2部◆

1. 相馬盆唄（日本・福島県）

相馬盆唄は福島県相馬地方の民謡。

盆踊り唄の一種で、相馬盆踊唄とも呼ばれる。元は秋田甚句の系統で、山形県の庄内・村山地方を経て福島県中通り・浜通りに伝わった。

土地の豊作を予祝する詞で、歌詞の7・7・7との5の間に「ヤレサ」の囃し詞が入る形式は関東の日光和楽踊りや秩父音頭に受け継がれている。



黛：相馬盆唄

2. ザピン（マレーシア）

イスラム教を伝えたアラブ人によってもたらされたダンスとマレーの音楽が融合して形成された踊り。

「ザピン」は、現代マレー舞踊を代表する踊りでマレー半島南部ジョホール州で最も盛んに踊られている。



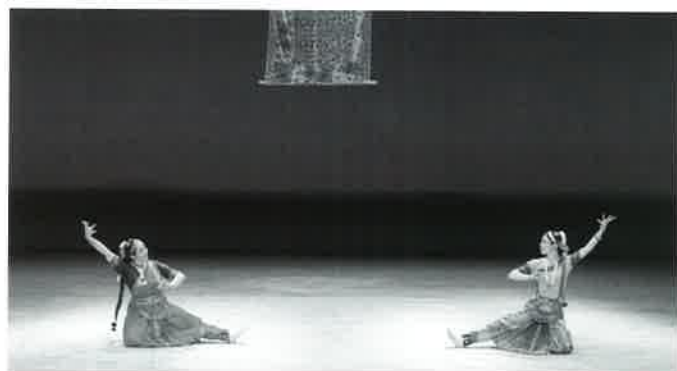
マレーシア：ザピン

3. 歓喜のリズム Rhythm in Joy（インド）

（バラタナティヤム古典舞踊 Bharatanatyam）

バラタナティヤム・南インド古典舞踊の最後をかざる、生命の躍動とリズムを表現した踊り。

「タキタ・タキタ・タカディミ」などと、リズムを数える歌詞が、リズムの楽しみを広げる。



インド：歓喜のリズム

4. 深川節（日本・東京都）

生粋の江戸情緒を梅坊主家元夫人より教えを受けた、江戸っ子気質の歯切れのよさを持つ踊りです。



黛：深川節

5. ジョゲ (マレーシア)

マレーシアの国民的ダンスであるジョゲのステップを踏みながら、様々なフォーメーションを展開しながら楽しく踊る。

今回のジョゲは「マレーの女の子」というノリの良い音楽に合わせて踊る。



マレーシア：ジョゲ

6. オイラッタム Oyilattam (インド)

(タミル民族舞踊 Tamil folk dance)

南インドでもたくさんのフォークダンスが踊られている中で、「オイラッタム」は収穫の喜びを現す踊り。「オイル」とは、タミル語で「美しい」という意味で、「アッタム」は「踊り」という意味なので、二つの言葉をあわせて「オイラッタム」とは、「美しい踊り」となる。現在は布を手にとって踊っている。



インド：オイラッタム

7. 鳩間節 (日本・沖縄県)

鳩間島の村祭りである「結願祭」で五穀豊穡を祈って踊られる。そして、儀式性を濃厚に感じさせるものになっている。



黛：鳩間節

8. ディキール・プトゥリ (マレーシア)

マレー半島北部で盛んなディキール・バラットの動きを取り入れた賑やかな踊り。途中から座ったまま、ユニークな動きを繰り返す。



マレーシア：ディキール・プトゥリ

9. タッパアッタム Tappattam (インド)

(タミル民族舞踊 Tamil folk dance)

誕生、祝賀、そしてお葬式まで、農村の人々の生活のあらゆる場面で登場する太鼓が、このタッパウ（別名バライ）という太鼓である。

この太鼓は、タミル社会の下層で差別に苦しむ人々が、自分達の心の叫びをこれに託し、新しい舞踊として発展させてきた、今ではタミルナードゥの民族舞踊を代表する太鼓舞踊。

このタッパアッタムを演奏できるのは、現在日本では、ヌリッティアンジャリ舞踊団だけで、水牛の皮をはった太鼓、タッパウを演奏しながら、エネルギッシュに踊る。



インド：タッパアッタム

10. 黒島口説 (日本・沖縄県)

三重山諸島黒島の風景や、人々の生活の様子を元氣よく口説きながら踊り、庶民の明るさやたくましさ表現した創作舞踊。地謡によってうたわれる歌で踊られるが、踊り手によるはつらつとした囃し詞が各一節一節に入って舞台を盛り上げる。



黛：黒島口説

2013・マレーシアサラワク文化村

「ワールドハーベストフェスティバル」公演記録

2013年5月3日～5日 マレーシア サラワク州 サラワク文化村で開催された『ワールド・ハーベスト・フェスティバル 2013』（サラワク州政府観光局・サラワク文化村共催）に参加した。

サラワク州はボルネオ島北西部に位置し、州都クチンはクアラルンプールから飛行機で1時間40分、文化村までは車でさらに1時間。周囲に山がないため昔から航海の目印にされてきたサントゥボン山の麓に文化村はある。村内には7つの民族の民家が復元され、少数民族の伝統文化に触れることができる。民族舞踊ショーも毎日2回上演されている。

訪問にあたっては、公益社団法人日本マレーシア協会専務理事 新井卓治さんにお骨折りいただき、現地での通訳など大変お世話になった。

訪問メンバー

黛 琉美、黛 智英、黛 真也、黛 圭、伊藤 みつ子、田母神 裕子、宇野 あかり、花柳 翁麗、花柳 美緒衛

4月30日（火）曇り

8:00 成田集合

10:30 マレーシア航空89便 定刻に出発

16:54 クアラルンプール着 晴れ 気温30℃

19:45 マレーシア航空2530便

21:25 クチン着

サラワク文化村のスタッフの方々、旅行会社の酒井さんらが出迎えてくれた。酒井さんは海外で活躍する女性として、日本のTV番組で紹介されたばかりだ。サラワク文化村の大型バスでダマイ・ビーチ・リゾートホテルへ。滞在中私たちの世話をしてくれる学生アルバイトのインさん、ボーイさんも乗り込む。



5月1日（水）晴れ

11:30 文化村へ

専属舞踊団のショーを見学する。1000人程収容できる劇場。ほぼ満席だ。舞踊団員は文化村で働きながら1日2回のショーに出演している。大学生を対象にした踊りと音楽の研修プログラムもあるそうだ。

12:30 昼食（ごはん、カレー、野菜のおかずなど）
スプーンとフォークで食べるのがマレースタイル

13:30 打ち合わせ

プログラムディレクターのナラウイさんと、具体的な上演場所、曲数等を確認しながら曲目を決めていく。予定にはなかったがメインイベントの野外劇『魚の女王』にも参加することになった。

15:20 会場下見

文化村内に点在しているステージを見て歩く。
村内は樹木が茂り、建物は木道でつながれている。

18:30 『魚の女王』のリハーサル

大きな池とそのまわりの芝生広場などがステージ。

出演者は近隣の小学生や元舞踊団員らも加わり、かなりの人数。物語はクラビット族に伝わるラブストーリーだ。黛はフィナーレの結婚式に参列する。



5月2日（木）晴れ

9:30 文化村でリハーサル 3ヶ所5ステージ分の稽古。黛が単独で30分のショーを行うレインフォレストミュージックハウス（伝統楽器などを展示したミュージアム）では、中央に一段高くなったスペースがあったりで、家元を中心にアイデアを出し合い、場内を効果的に使う工夫をした。暑かった。

17:20 大型バスでクチン郊外のショッピングセンターへ
会場には黛の舞台写真がプリントされたのぼり旗
も用意されていた。

20:10 プロモーション（文化村のミュージシャン達、ク
ラビット族の若いダンサー達と黛が出演）
フードコートちょっとしたスペースが舞台。買
物や食事に来ている人々に「会津磐梯山」と「は
ねこおどり」を披露した。文化村のジェネラルマ
ネージャーのジェーンさんが駆けつけてくださっ
た。日本式のお辞儀をしたいと深々と頭をさげら
れる、気さくな方だ。



5月3日（金）晴れ

ハーベストフェスティバル初日

11:30 専属舞踊団のショーの中で「会津磐梯山」「伊予
万才」を踊る。

終了後、マレーシア国营テレビの取材を受けた。

15:20 レインフォレストミュージックハウス本番
曲目は「はねこおどり」「黒田節」「会津磐梯山」

「伊予万才」「黒島口説」黒島口説のアンコールが途切れてしまい最初からもう一度流れてしまうという
ハプニングが起こったが、観客も巻き込んで即興を交えながら踊り、場内が一体となって盛上った。

19:45 満点の星空。夜通し鳴くという鳥の声が効果音のように聞こえる中『魚の女王』が始まった。
黒島口説の衣裳で参加。

終演後、美人コンテストが行われている劇場下のギャラリーへ移動し次の出番を待つ。

23:00 呼ばれて袖に行くともう音楽が流れてしまい大慌てで舞台に上った。
「黒島口説」を踊り、長い一日が終わった。



5月4日（土）晴れ

9:45 イバンロングハウス イバン族の家でワークショップ
酒井さんが用意してくれた日本の米と海苔でおに
ぎりを作り、参加者に食べてもらった。「はねこ
おどり」を教え、皆で踊る。前日共演したクラビ
ット族のダンサー達も参加してくれた。

16:00 パンゴンブダヤ劇場本番
専属舞踊団のショーで「黒田節」「からす三番」
「祝い舞」を踊る。



19:45 『魚の女王』に浴衣で出演。終了後、イバンロングハウスでパーティー。

5月5日(日) 雨のち曇り

10:00 ワークショップ

雨はあがっていたが人出が今ひとつ。総選挙の影響もあるのだろうか。前日同様おにぎりを握り、「はねこおどり」を教える。

15:30 パンゴンブダヤ劇場本番

専属舞踊団のショーで「祝い舞」を踊る。「美人コンテスト」の表彰式も行われフェスティバルが終了した。

19:00 イバンロングハウスでパーティー

ジェーンさんから参加者への労いと感謝のスピーチ。

食事の後、「ポチヨポチヨ」というステップを教わりダンスを楽しんだ。



5月6日(月) 晴れ

11:30 ホテルをチェックアウト

13:30 ナラウイさん、ボーイさん、インさんとお別れし、大型バスでクチンへ（クチンは猫という意味。街中には猫のオブジェがたくさんある）

14:30 グランド・マルガリータ・ホテル着

16:30 希望者のみ、マングローブ・リバー・クルーズに出発

湾の中でイルカを発見。それから川を遡り、マングローブの森を注意深く見ていくとテングザルの群が！暗くなると赤く光るワニの目、クリスマスツリーのように光るたくさんの螢も見た。

21:00 クチンへ戻る。渡し舟で川を渡り、対岸のレストランで夕食。

5月7日(火) 晴れ

10:00 市内散策と買物

17:00 文化村のバスで空港へ

21:15 出発。20:00出発の予定がこの時間に

22:55 クアラルンプール着。大急ぎで乗り継ぐ

5月8日(水) 晴れ

6:55 成田空港着

クアラルンプールで荷物の積み込みが間に合わず、翌日届けられることとなった。

8:40 お迎えの莉香先生もとへ

お土産話しと、新聞を持ってた дайマの挨拶。



記：日本マレーシア協会専務理事 新井卓治
黛民族舞踊団 伊藤みつ子

世界舞踊祭2014

平成24年3月29日（土）国立劇場小ホールに於いて世界舞踊祭2014が行われました。黛民族舞踊団もこれに参加し「出雲の阿国・踊り絵巻」を上演致しました。満開の美しい桜の園の国立劇場に吸い込まれる様に9時半に辿り着きました。本日は桜満開の舞台で出雲の阿国を上演する日でした。国立劇場も桜まつりをしている日、何と美しい光景でしょう。

日本民族舞踊「出雲の阿国・踊り絵巻」

【作・振付】 黛 節子 【構成・振付】 黛 琉美

【演 出】 米山 順一 【特別出演】 藤間 章吾

【出 演】 黛民族舞踊団

黛 琉美、黛 智英、黛 莉香、黛 真也、黛 李穂、黛 圭、伊藤 みつ子
宇野 あかり、五月 女華舟、花柳 翁麗、藤間 勘加紅、小山 羊子

【照 明】 井上 正美 【舞台監督】 八木 清市

【演 目】 (1) 花念仏踊り (2) 想夫恋 (3) しのはら踊り (4) 巫女舞
(5) ややこ（幼々子、可愛子）踊り (6) 小原木・綾子舞
(7) からす三番 (8) 祝い舞（「花田植え」と「豊年舞」）

「出雲の阿国・踊り絵巻」について

昭和30年代、40年代と黛節子は赤坂の地で、日本舞踊家として活躍しました。歌舞伎の修練に始まり、舞台舞踊の研鑽に没頭した女性です。それが出雲の阿国の踊りに出会って、彼女の踊る姿勢がより鮮やかに一変しました。華麗な神楽や荘厳な謡曲、艶やかな白拍子の舞には目もくれず、一途に阿国の踊る姿に振りの原点があると、追い求めたのです。

地方に残る阿国の踊りをそのまま舞台にのせるのではなく、彼女の独特の感性で練り直して舞台化したいと考えました。東京の人、世界の人が観て、感動するものと願ったのです。

黛節子は日本人の生活の中に、労働の中に、生命の躍動する振りを探し続けた舞踊家でした。それはまるで400年前に、阿国が出雲から京へ上る道すがら学んだ民衆の踊りを、四条の河原で舞台化することと同じでした。

40年経た今、黛節子の直弟子、二代目家元の黛琉美が踊りの振りばかりでなく、音楽そのままに先代の結晶を再現しようと試みました。

一つ一つの踊りには、各地を巡業した阿国の魂が宿っているはずです。

《平成25年度 賛助会費納入者一覧 皆様の御協力をお願い致します。》

有田 平・岩瀬 敬一郎・石上 春江・奥山 章雄・北川 太一・小松 啓介・沢田 祐二・鹿海 信也

諏訪 春雄・武田 悦子・花柳 衛吉・花柳 寿輔・黛 莉香・黛 智英・黛 琉美・黛 李穂

黛 真也・黛 圭・松崎 邦昭・山下 洋子



マレーシア公演にて

一般財団法人

黛民族舞踊文化財団のあらまし

一般財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、(1) 民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2) 後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3) 日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、(4) 世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5) 民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げます次第です。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます次第です。

黛民族舞踊文化 No. 26 2014年5月8日発行 発行人 加戸 守行 編集 加戸 守行

〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F TEL 03-3583-3633(代)

一般財団法人黛民族舞踊文化財団

FAX 03-3583-3639

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATOKU, TOKYO